

平成30年度  
事業報告書

〔 自 平成30年4月1日  
    (2018年4月1日)  
至 平成31年3月31日  
    (2019年3月31日) 〕

公益財団法人 大山健康財団

公益財団法人 大山健康財団  
平成30年度事業報告書

〔 自 平成30年4月 1日  
至 平成31年3月31日 〕

本財団の平成30年度の事業は、平成30年度事業計画書に基づき、下記の事業等を行った。

I. 学術研究助成事業

本財団定款第4条第1項第1号に規定される学術研究助成事業は、大学、研究所、病院などにおいて、感染症の基礎的あるいは臨床的研究を行っている者及び感染症に関する疫学的研究を行っている個人で、満50歳以下の者を対象とする研究助成金で、平成30年度（第45回）学術研究助成事業は次の日程により実施した。受贈者は下記のとおりである。

なお、贈呈式は、平成31年3月14日（木）に霞ヶ関東海倶楽部において開催した。

- ・公募開始：平成30年10月1日 応募要領・申請書195通発信

本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイト、日本感染症学会、日本寄生虫学会のホームページに応募要項を掲載した。

- ・公募締切：平成30年11月30日 応募件数：77件

（応募内訳 細菌学50、寄生虫24、その他3）

- ・選考委員会：平成31年1月24日

- ・理事会決定：平成31年2月7日

【第45回学術研究助成金受贈者】（敬称略）

氏名	所属・役職	研究課題	助成額(円)	選考分野
いのうえ しんいち 井上 信一	長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 准教授	三日熱マラリアの重症化における自然免疫様細胞 $\gamma\delta$ T細胞の役割の解明	100万	寄生虫学
きんじょう ゆうき 金城 雄樹	東京慈恵会医科大学 細菌学講座 主任教授	バイオフィルム形成機構の解明及び制御法の開発	100万	細菌学
さいとう りょういち 齋藤 良一	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 分子病原体検査学分野 准教授	ガーナ共和国における下痢原性大腸菌の分子疫学研究	100万	細菌学
しんざわ なおあき 新澤 直明	東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 助教	転写因子の網羅的標的遺伝子解析に基づくマラリア原虫赤血球侵入機構の解明	100万	寄生虫学
たちばなしんいちろう 橘 真一郎	順天堂大学医学部 助教	薬剤耐性マラリアの地域特異的な出現を規定するゲノム基盤の解明	100万	寄生虫学
ちゅう よんじん 邱 永晋	北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター ザンビア拠点部門 博士研究員	ザンビアにおける新規ヒト病原性回帰熱ボレリア“ <i>Borrelia fainii</i> ”の浸淫調査	100万	細菌学

にしむら 西村	ともやす 知 泰	慶應義塾大学 保健管理センター 専任講師	肺 MAC 症の病態におけるホルモンの役割	100万	細菌学
はしもと 橋本	むねあき 宗 明	産業技術総合研究所 健康工学研究部門 主任研究員	マラリア撲滅に向けた全自動診断装置の高機能化とその実証試験	100万	寄生虫学
むら せ 村 瀬	ち あき 千 晶	名古屋大学大学院 医学系研究科皮膚科学分野 大学院生	アフリカ諸国における顧みられない熱帯皮膚病のマイクロバイオーム解析	100万	細菌学
やまもと 山本	よしなり 祥 也	広島大学大学院 生物圏科学研究科 助教	母子免疫を利用したオリゴDNA ナノカプセルの自由摂取による新生児の感染防御機能の増強効果の検証	100万	細菌学
				1,000万	

## II. 顕彰事業

本財団の定款第4条第1項第2号及び大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞選考規程第2条に基づき、平成30年度顕彰事業は下記の日程で実施し、審議の結果大山健康財団賞に澤田貴志氏、大山激励賞に公文和子氏、竹内勤記念国際賞に石上盛敏氏をそれぞれ受賞者に決定した。

なお、贈呈式は平成31年3月14日（木）に霞ヶ関東海倶楽部において開催し、大山健康財団賞受賞者には賞状・記念メダル・副賞100万円を、大山激励賞受賞者には賞状・副賞50万円を、竹内勤記念国際賞受賞者には賞状・副賞30万円を贈呈した。

- ・公募開始：平成30年10月1日 推薦依頼44通発送  
本財団ホームページ及び公益財団法人公益法人協会共同サイトに推薦依頼を掲載した。
- ・公募締切：平成30年11月30日
- ※推薦件数：大山健康財団賞：5件、大山激励賞：4件、竹内勤記念国際賞：1件
- ・選考委員会：平成30年12月18日
- ・理事会決定：平成31年2月7日

### 1. 平成30年度（第45回）大山健康財団賞受賞者（敬称略）

○澤田 貴志 さわだ たかし（認定）特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会 副代表理事  
神奈川県勤労者医療生活協同組合「港町診療所」 所長  
医師 満58歳

#### <功労の内容>

澤田貴志氏は、一般内科医としての診療の傍ら、永年、民間組織のボランティア活動に参加され、特に社会的弱者を対象にした診療、国際協力に多大な貢献をされた。

1991年、フィリピン・ピナツボ火山が大噴火した際には、現地NGOや住民と連携して医療支援に尽力された。帰国後、シェア＝国際保健協力市民の会が開始した在日外国人の健康支援活動にボランティア医師として参加され、以来、医師・理事として在日外国人への医療支援とその研究活動に中心的役割を担われるとともに、無料健康相談にも25年以上携わってこられた。

さらに、結核予防会の外国人相談事業においても、来日後発症した外国人結核患者の医療に関し、20年以上にわたり、講習会等での講師、アドバイザー、機関誌への寄稿などに貢献をされた。また、1991年に外国人を含む社会的弱者に寄り添う「港町診療所」に入職され、2006年よ

り所長も務められている。

加えて、シエラのタイでの HIV 陽性者支援に理事として 25 年携わり、タイ王国大使館名誉医療アドバイザーとして在日タイ人の医療支援並びに「MIC かながわ」の理事として医療通訳育成に 15 年以上尽力された。

さらに、東京都の結核患者治療服薬支援員（医療通訳）育成・派遣事業には開始時から 10 年以上協力されており、澤田貴志氏の国際医療協力は高く評価される。

## 2. 平成 30 年度大山激励賞受賞者（敬称略）

- 公文 <sup>くもん かずこ</sup>和子 ケニアの障がい児療育事業「シロアムの園」代表  
 医師（小児科） 医学博士 満 50 歳

### < 功労の内容 >

公文和子氏は、途上国において満足な医療や教育も受けられない子どもたちの医療支援並びに障がい児とその家族に対する療育支援に多大な貢献をされている。

小児科医を目指されていた北海道大学時代に、バングラデシュを訪れたときの経験から、途上国での子どもたちの医療支援を志され、イギリス・リバプールで熱帯小児医学を学ばれ、シエラレオネの難民キャンプにある国立病院での医療活動に従事された。その後、JICA ケニア感染症対策プロジェクトの長期派遣専門家としてコミュニティや医療施設にてマラリア・HIV・結核対策活動に従事され、ケニアの保健衛生の改善に貢献された。

更に、障がい児への医療支援活動の重要性を認識され、ケニアの NGO チャイルドドクターにて、巡回診療をする小児科医として 10 年間にわたり活動された。

その中で歌手のさだまさし氏が設立した「風に立つライオン基金」の協力を受け、2015 年にケニアに障がい児とその家族に対する療育支援を行う施設「シロアムの園」を創立された。

ケニアは現在、分娩時ケアは十分とは言えず、障がいをもつ子どもたちが増えており、社会的な弱者の権利擁護を進める「アドボカシー」を身を持って実践されている公文和子氏の国際医療協力は高く評価される。

## 3. 平成 30 年度（第 1 回）竹内勤記念国際賞受賞者（敬称略）

- 石上 <sup>いわがみ もりとし</sup>盛敏 国立研究開発法人国立国際医療研究センター研究所  
 熱帯医学・マラリア研究部  
 上級研究員 医学博士 満 46 歳

### < 功労の内容 >

石上盛敏氏は、学部学生時代から現在に至るまで一貫して、発展途上国で熱帯医学、特に寄生虫の分子遺伝疫学研究を行い着実な成果を挙げてこられた。

学生時代は、アジア諸国、並びに中南米諸国に流行する肺吸虫症、住血吸虫症、シャーガス病等の感染率、分布状況、並びに DNA 塩基配列に基づく分子系統分類を実施されるとともに、スリランカでは肺吸虫の中間宿主貝の同定を初めて行われた。

2004 年から国立国際医療研究センター（NCGM）に所属され、フィリピン、韓国、東南アジア諸国の薬剤耐性マラリアの分布状況、並びにマラリア原虫集団の伝搬動態を明らかにされた。2014 年からは NCGM の海外研究拠点の一つであるラオス国立パスツール研究所に常駐され、マラリア、メコン住血吸虫症、及びタイ肝吸虫症の研究と対策をラオス保健省並びに WHO と共に実施されてこられた。さらに、ラオス保健省と共に同国における大規模マラリア・フィールド調査により、無症候性キャリアーの発見、アルテミシニン耐性マラリアの拡散状況の詳細な把握、並びにサルマラリア原虫のヒト感染症例をラオスで初めて報告されるなど、長年発展途上国で熱帯医学、寄生虫学の領域において果たされた功績は高く評価される。

## Ⅲ. 学術集会支援事業

本財団定款第 4 条第 1 項第 3 号に基づき、平成 30 年 4 月 1 日から 4 月 30 日の期間で本財団のホームページに募集要項を掲載し募集を行なった結果、3 件の応募があり、平成 30 年 5 月 18 日開催の学術集会支援審査委員会及び同日開催の理事会において、下記の事業に支援することを

決定した。

1. 第 71 回日本細菌学会関西支部総会・学術講演会に 30 万円助成した。同事務局より以下の報告があった。

- ・申請者：川端重忠（大阪大学大学院歯学研究科口腔細菌学教室 教授）
- ・主催者：日本細菌学会関西支部会
- ・開催責任者：川端重忠
- ・開催期間：2018 年 10 月 28 日（日）
- ・開催場所：大阪大学 中之島センター（大阪市）
- ・参加者数：79 名
- ・申請金額：50 万円（総予算：150 万円）

【開催概要・成果】

第 71 回関西支部会では、公募演題として大学院生や学部学生による若手研究者奨励賞エントリー演題が 16 題（うち 1 題は発表取り下げ）、一般演題が 11 題と例年を超える多くの演題が集まりました。若手研究者奨励賞エントリー演題においては、学会参加者の投票によって優れた発表を行った 3 名の発表者が奨励賞に選ばれました。また、招待講演として、若手プロジェクトチームによる企画シンポジウムが 3 題、特別講演 1 題、教育講演 1 題が行われました。

運営に関しまして、支部幹事・監事会、ならびに評議員会・総会を行い、次期幹事、監事、評議員を決定するとともに、今後の学会の運営方針を議論しました。さらに、情報交換会では、招待講演の演者 5 名を含む 51 名の参加があり、活発な意見交換がなされました。

【会計報告】

抄録集作成費：54,000 円、学会場利用費：67,200 円、謝礼費：100,000 円、学会賞費：25,000 円、郵送費：3,000 円、人件費：20,000 円、事務用品購入費：27,500 円、駐車場利用費：3,300 円、計 300,000 円

2. 第 2 回日本国際小児保健学会学術大会に 40 万円助成した。同事務局より以下の報告があった。

- ・申請者：石和田稔彦（千葉大学真菌医学研究センター感染症制御分野 准教授）
- ・主催者：日本国際小児保健学会
- ・開催責任者：石和田稔彦
- ・開催期間：2018 年 9 月 8 日（土）
- ・開催場所：JR 千葉駅ペリエホール
- ・参加者数：150 名
- ・申請金額：50 万円（総予算：100 万円）

【開催概要・成果】

本学会は、2018 年 9 月 8 日（土）、ペリエホール RoomA（JR 千葉駅直結）にて開催した。午前中は 7 題の一般口演を行った。マラウイ・ガーナ・バングラデシュ・ネパールにおける小児を対象とした研究の報告と国内での外国人小児結核とトラベルクリニックにおける小児受診者に関する報告であり、活発な討議が行われた。

午後は、総会の後、特別講演として WHO ラオス事務所で活躍中の窪田祥吾先生をお招きし、「脱『小児』国際保健の薦め」というタイトルでご講演いただいた。国際保健医療の現場で今まさに求められている活動とは何かというお話で、参加者の今後の活動を考えていくうえで、大

変参考になるお話であった。

最後に、シンポジウム「世界のこどもたちのために出来ること」を行った。このシンポジウムは、今回の学術大会のテーマを掲げたものであり、日本国際小児保健学会会員の多彩な活動を参加者に広く知っていただくために企画された。5名のシンポジストの方からそれぞれ、ベトナムにおける小児感染症研究（樋泉道子先生）、ラオス、マラウイ、ロヒンギャにおける医療協力活動（浦部大策先生）、海外渡航している小児に対するメールによる医療相談（田中孝明先生）、保健所における外国人小児への支援（渡邊洋子先生）、外国人小児への診療に際して留意すべき宗教文化的側面について（中村安秀先生）のお話を伺った。いずれのお話も大変内容の充実したもので、演題ごとに多くの質疑応答がなされた。学会は17時終了予定であったが、最終的に議論が続き、17時30分すぎに終了となった。

学会参加者からは「参加して良かった」との声を多くいただいた。

最後に、本学術大会開催にあたり、多大なご支援をいただいた公益財団法人大山健康財団の関係者の方々に深く御礼申し上げます。

#### 【会計報告】

・日本国際小児保健学会会場費（ペリエホール）	243,000 円
・座長・シンポジストへのお礼（クオカード）	11,632 円
・抄録集作成	56,160 円
・学会会場備品代（ペリエホール）	82,058 円
・文具代	7,150 円
	合計 400,000 円

3. 第32回日本バイオフィルム学会学術集會に30万円助成した。同事務局より以下の報告があった。

- ・申請者：池田 宰（宇都宮大学 理事・副学長）
- ・主催者：日本バイオフィルム学会
- ・開催責任者：池田 宰
- ・開催期間：2018年7月27日（金）～28日（土）
- ・開催場所：宇都宮大学陽東キャンパス アカデミアホール
- ・参加者数：82名
- ・申請金額：30万円（総予算：150万円）

#### 【開催概要・成果】

- ・招待講演1件 バイオフィルムのシステムの理解と制御  
常田聡（早稲田大学 先進理工学部 生命医科学科）
- ・会長講演1件 微生物制御による水処理分野におけるバイオフィルム制御技術の開発  
池田宰、諸星知広、加藤紀弘、野村暢彦（宇都宮大学、筑波大学）
- ・口頭発表12件
- ・ポスター発表12件

#### 【成果】

微生物の付着やバイオフィルム形成に関する医学、歯学、薬学、農学、理学、工学の広い範囲の研究者による総合的な学術集會として、幅広い分野の研究者間での情報共有の機会を提供した。

多様な分野での取り組みをベースに、その複数分野が強調する、学際領域、融合領域の研究が進展するために、本学術集会に多分野の研究者が集い、バイオフィームに関わる様々な分野の意見交換、情報共有が行われることは、他に類が無く、日本におけるバイオフィーム研究の中心であり、新規な感染症対策技術開発への貢献度も高いと期待される。

#### 【会計報告】

- |     |           |           |
|-----|-----------|-----------|
| ・収入 | 大山健康財団助成金 | 300,000 円 |
|     | 会費収入      | 462,500 円 |
|     | 合 計       | 762,500 円 |
- ・支出 会場費 150,000 円、抄録集印刷代 69,120 円、郵送費 33,460 円、アルバイト代 (12 名分) 120,000 円、サーバー使用料 50,000 円、若手 WS 賞品 10,000 円、コーヒープレーク一式 13,208 円、文房具代等 38,741 円、コピー・トナー代等 160,320 円、運営スタッフ弁当代 12,960 円、懇親会費補助 59,540 円、合計 717,349 円、残金 45,151 円

#### IV. 年報作成

2018 年・2017 年合併版 (年報No.43) として、平成 29 年度・平成 28 年度学術研究助成金受贈者、大山健康財団賞・大山激励賞受賞者及び平成 29 年度・平成 28 年度贈呈式アルバム並びに平成 28 年度第 43 回学術研究助成金受贈者の研究業績報告を掲載し作成した。(平成 30 年 12 月発行)

#### V. 寄附金

国際医学研究会 (慶應義塾大学医学部学生組織) の第 4 1 次派遣団に寄附金 30 万円を供与した。同研究会より下記の報告があった。

- ・派遣期間：平成 30 年 7 月 14 日～8 月 26 日 (44 日間)
- ・平成 30 年度訪問国：ブラジル連邦共和国、スウェーデン王国
- ・団 長：田中 守先生 慶應義塾大学医学部産婦人科学教室 (産科) 教授

#### 【活動内容】

本年度の第 41 次派遣団は、本研究会の設立趣旨である『医の原点の実体験』、『医学、医療を通じた国際交流』及び第 9 次 5 ヶ年計画である「変わりゆく社会に即した医療の考察」を掲げ活動を行った。

本研究会は、創設以来活動地域をブラジルから徐々にアフリカや欧州へと広げ、数々の実績を重ねて来た。ブラジル国内で過去派遣団の活動を継続し発展させ、国際医学研究会として長きに渡り継続していく活動の一貫性及び、現地還元の可能性を探求すると同時に、本年度は福祉国家として知られているスウェーデンで活動を行い、日本の高齢社会に対して提言を行うことを目指した。以下、本年度の活動目標とその具体的な活動内容を記す。

##### 1. 「医の原点」の実体験

- ・ブラジルには日本とは全く異なる状況下で限られた医療資源を最大限に有効活用しようと懸命に取り組まれている医療が存在する。このような医療を実体験することで医の原点について考えを深め、医師としての素質を養うことを目標として活動した。
- ・アマゾナス州マナウスにおいて、アマゾン河流域の無医村をめぐる海軍病院船に同乗し、医療活動を実施した。
- ・ロライマ州ペドラ・ブランカを訪れ、そこで生活をする先住民族の村を訪問し、Associação medicos da floresta の一員として巡廻診療及び健康調査に参加した。

##### 2. 医学、医療を通じた国際交流

近年、国際医療交流の活発化は目覚ましく、医療交流の必要性もより一層増加すると考えられ

る。それに伴い、医療従事者にもますます国際的な視野を持つことが求められている。私どもは本研究会の活動を通じて現地医療従事者との交流を深め、自らのコミュニケーション能力を養うと同時に、現地大学医学部をはじめとする各団体との医療交流の更なる発展に努めた。

- ・ 現地大学医学部や医療施設を訪問し、実習を行った。
- ・ 現地医学生と「第 31 回日伯医学生会議」を開催し、ポルトガル語で医学的話題を発表、討論を行った。
- ・ 本医学部教員である団長が日本における最新の医学的知見を講演し、現地医療従事者と討論を行った。
- ・ 世界を舞台に活躍されている三田会の先輩方を訪問した。
- ・ 「第 1 回ブラジル日系医師会会議」に出席し、現地医療従事者と交流を図った。

### 3. 変わりゆく社会に即した医療の考察

2025 年の日本では、団塊の世代が後期高齢者とされる 75 歳以上に到達するため、介護・医療費などの社会保障費の急増が懸念されており、現在の医療福祉制度における重要な課題として 2025 年問題と称されている。また、急速な高齢化に応じて医師が求められる医療は変化し、今日では現代病とされる生活習慣病や、健康な生活を過ごせる健康寿命への需要が強まっている。

第 41 次派遣団は、本研究会が設立当初より行っている南米地域での継続的調査に加え、医療福祉国家として名高い北欧型の医療福祉システムを学ぶことが、時代に即した理想の医療を考察する一助になると考えた。中でもスウェーデンは高齢者に対する介護サービスが優れており、終末期医療・緩和医療に関しても普及が進んでいることから、本年度の活動地として最適であると考えた。今夏の渡航活動では現地病院への訪問に加え、介護施設・老人施設を訪問し高齢社会における医療及びその医療体系を実体験した。

＜ブラジルにおける継時的な調査として＞

- ・ パラー州ベレンを対象としたメタボリックシンドローム調査を行った。過去の活動の効果を判定し、より深く介入した調査と積極的な予防啓蒙活動を行った。

＜スウェーデンにおける調査として＞

- ・ スtockホルムのカロリンスカ病院、カロリンスカ研究所を訪問した。
- ・ アカデミスカ病院を訪問し、老年疾患病棟にて実習を行った
- ・ 現地医療従事者との交流を行った。
- ・ 現地高齢者施設の訪問並びに在宅医療の見学を行い、地域に即した介護医療を調査した。

## VI. 贈呈式及び祝賀会

平成 30 年度の学術研究助成金並びに大山健康財団賞・大山激励賞・竹内勤記念国際賞の贈呈式・祝賀会は下記の通り行った。

- ・ 開催日時：平成 31 年 3 月 14 日(木) 午前 11 時 30 分～午後 2 時 30 分
- ・ 開催場所：霞が関ビル 35 階 霞ヶ関東海倶楽部

◇贈呈式（敬称略）

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| ・ 開会の挨拶及び選考経過報告        | 神谷 茂 理事長  |
| ・ 第 45 回学術研究助成金受贈者代表挨拶 | 金城 雄樹     |
| ・ 第 45 回大山健康財団賞受賞者挨拶   | 澤田 貴志     |
| ・ 平成 30 年度大山激励賞受賞者挨拶   | 公文 和子     |
| ・ 第 1 回竹内勤記念国際賞受賞者挨拶   | 石上 盛敏     |
| ・ 『記念講演』               | 澤田 貴志     |
| ・ 閉会の挨拶                | 中里 博 常務理事 |

◇祝賀会：贈呈式終了後に開催



## VII. 総務事項

### 『理事会』（平成 30 年度）（敬称略）

#### ◇第 16 回理事会（書面表決）

（平成 30 年 4 月 10 日） 理事総数 6 名 監事 2 名

- ・竹内勤理事長急逝に伴う代表理事（理事長）の選定

※神谷茂専務理事を代表理事（理事長）に選定、（5 月 14 日登記）

#### ◇第 17 回理事会

（平成 30 年 5 月 17 日）出席者 理事 5 名 監事 2 名

1. 「平成 29 年度事業報告書（案）」の承認
2. 「平成 29 年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. 「平成 30 年度学術集会支援助成金の贈呈対象学術集会」の決定・・5 月 22 日に本財団ホームページにて開示

（1）第 71 回日本細菌学会関西支部総会（助成金額：30 万円）

（2）第 2 回日本国際小児保健学会学術大会（助成金額：40 万円）

（3）第 32 回日本バイオフィルム学会学術集会（助成金額：30 万円）

4. 第 12 回評議員会（定時評議員会）の日時及び場所並びに議事に付すべき事項」の承認

5. 「竹内勤記念国際賞創設について」の承認

- ・本年度中に「第 1 回竹内勤記念国際賞」について公募を行い、選考の上、贈呈する。

（副賞は 30 万円とする）

- ・竹内勤前理事長夫人の竹内礼子様より 300 万円の寄付金受領。

6. その他、報告事項

#### ◇第 18 回理事会（書面表決）

（平成 30 年 6 月 21 日） 理事総数 6 名 監事 2 名

1. 「定款の一部改正（案）」について承認

- ・第 32 条（理事の職務及び権限）第 4 項・・・「理事長及び執行理事は」→「理事長及び専務理事、常務理事は」に改正

- ・第 40 条（権限）第 1 項（5）・・・「業務執行理事」→「常務理事」に改正

- ・第 47 条（報告の省略）第 2 項・・・「第 5 項」→「第 4 項」に改正

2. 「定款一部改正（案）承認の件についての評議員会を書面表決とする件」の承認

#### ◇第 19 回理事会（書面表決）

（平成 30 年 7 月 26 日）

1. 「竹内勤記念国際賞」の創設及び内閣府への変更認定申請内容の承認

2. 「委員会規程」及び「大山健康財団賞及び大山激励賞選考規程」改正案の承認

3. 上記 1 及び 2 の承認の件について、第 14 回評議員会（平成 30 年 8 月 3 日）を書面表決とする件の承認。

#### ◇第 20 回理事会

（平成 31 年 2 月 7 日）

1. 第 45 回学術研究助成金受贈者の決定

2. 第 45 回大山健康財団賞、平成 30 年度大山激励賞、及び第 1 回竹内勤記念国際賞受賞者の決定

3. 2019 年度事業計画書（案）の承認

4. 2019 年度正味財産増減予算書（案）の承認

5. 2019 年度、2020 年度学術集会支援審査委員の選任

6. 大山健康財団賞、大山激励賞及び竹内勤記念国際賞選考規程一部改正案の承認
7. 第15回評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項の承認
8. その他、報告事項

『評議員会』（平成30年度）（敬称略）

◇第12回評議員会（定時評議員会）

（平成30年6月7日） 出席者 評議員6名 理事5名 監事2名

1. 「平成29年度事業報告書（案）」の承認
2. 「平成29年度決算報告書（案）」の承認・「監事の監査報告」
3. その他、報告事項

◇第13回評議員会（書面表決）

（平成30年6月28日） 評議員総数9名

- ・定款の一部改正案についての承認・・・上記、第18回理事会参照

◇第14回評議員会（書面表決）

（平成30年8月3日） 評議員総数9名

1. 「竹内勤記念国際賞の創設及び内閣府への変更認定申請内容」についての承認
2. 「委員会規程」及び「大山健康財団賞及び大山激励賞選考規程」改正案の承認

◇第15回評議員会

（平成31年3月14日） 出席者：評議員7名、理事5名、監事2名

1. 「2019年度事業計画書（案）及び2019年度正味財産増減予算書（案）」の承認
2. その他、報告事項

## VIII. 内閣府関係

『定期提出書類等』（電子申請）

1. 事業報告等の提出

- ・平成29年度の事業報告書及び決算報告書の提出（電子申請による関連報告を含む）  
提出：平成30年6月29日、補正・修正：平成30年9月6日、平成30年10月5日、平成30年10月17日、平成30年11月1日、平成30年11月14日、平成30年11月29日

2. 変更の届出

- ・竹内勤理事長逝去に伴う代表理事変更の届出：平成30年5月24日  
※新任代表理事：神谷 茂（平成30年4月10日就任、平成30年5月14日登記）
- ・定款の一部変更 提出：平成30年7月10日  
※定款第32条の業務執行理事を常務理事に変更し、第47条（報告の省略）第2項条文中の「第32条第5項」を「第32条第4項」に変更した。
- ・竹内勤記念国際賞創設に伴う公益目的事業の変更 提出：平成30年9月4日  
※顕彰事業に竹内勤記念国際賞を追加
- ・飯田全弘評議員逝去（平成30年12月8日）による届出：平成31年3月7日、登記：平成31年2月21日

3. 事業計画書等の提出

- ・2019年度の事業計画書及び正味財産増減予算書の提出  
提出：平成31年3月28日、

以上

**【附属明細書】**

平成30年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成31年4月

公益財団法人 大山健康財団